

**投資本
過度の期待は
禁物だ**

山ほど新刊の出る投資本だが、中身の薄いもの、有害なものも。人それぞれで適した投資本は異なるし、名著とされていた本でも「過去の常識」を教えていたりするので、投資本を選ぶのはとても難しい。

心得
1

編集部

いい投資本、と一口にい

**経験に伴った読書こそが
投資力アップの力キ**

「守る」ための手段。資産の少ない人が分散投資で資産を殖やそうとしても、気が遠くなります。資金の少ない人が投資でもうけるには、度胸を決めて集中投資するしかない。つまり、資産額一つをとっても、その人に適した投資本というのは異なってくる。

小幡 「昔のいい本」にも落とし

穴がありますしね。時間経過で真理が変わっていくのも、投資本の難しいところ。当時の常識も、後になると過去の常識になっていることが往々にしてあるけど、名著と紹介されれば読者はそれを鵜呑みにしがち。将棋の定石は昔から変わらないから、お勧め本も挙げやすいんですけどね。

つても、なかなか難しいというところがよく分かりました。

小幡 とにかくいいたいのは、「勉強すればいい」とか「本を読めばいい」とか、その姿勢がダメだということ。「いい投資本を一生懸命読んで勉強すれば、きっと損はしないだろう」、その気持ちこそが危ない。損はどうしてもするので、覚悟は必要だと思います。
小銅 みんな、損をしたくないという気持ちが強過ぎるね。株って

半分はゲームなのに、マジメに考え過ぎなんでしょう。損を出すことを極端に怖がるでしょ。

新田 先ほど「とりあえず10冊」と話しましたが、仕組みとか用語とか、ある程度の基礎部分を本で勉強したら、あとは実践して、そして、ある程度失敗していかないと。私なんて投資家が犯すであろうありとあらゆるミスを繰り返してきていますからね。フフフ。

小銅 私は投資ではないですけど、22歳のころに自宅の火事で全財産ふっとばしたことがありますから！ 若いうちに損しておくって強いですよ（笑）。資産が数千万単位になってからだと20%の損失でも笑えなくなるから、なるべく資産の少ないうちに損を出す経験に慣れておくべきでしょう。

**「読書」より
「経験」こそが
投資力**

ある程度投資本を読んで、用語や仕組みを知ったら、とにかく実践すべし。本の通りにやってみて、それで損をして当たり前。そこで自分はなぜ損をしたのかを考えることが、投資力アップにつながる。

心得
2**小幡**

でも、金額が小さいからといって、何も考えずにやって「損しちゃったよ、あーあ」だけじゃ進歩がない。本に書いてあるから、とそのままやるのではなくて、自分で考えて勝負して、それで失敗したら、その理由を考える。そうして自分なりに試行錯誤を加えていく。その過程が投資力につながるっていいんです。

小銅

あくまでも、本はそのため

小幡 自分の行動、失敗と向き合

って、それをモデル化していく、実はその過程こそが「行動経済学」なんですよね。まだ未完成の学問だからすごく面白いよ。

編集部

読者の多くはこの金融危機で何らかの失敗を経験しているはずですから、振り返って学ぶにはいい機会ですね。

新田

本当に経験は貴重ですよ。

行動ファイナンスの第一人者**小幡 績**さん

慶応義塾大学ビジネススクール准教授。研究の傍ら、自身も個人投資家として実践。近著に『世界経済はこう変わる』『ネット株の心理学』（ともに光文社刊）

失敗を
モデル化する
それが
行動経済学！**強靱な精神力のカリスマ投資家****新田ヒカル**さん

株式、225先物、FXを安定運用する。ファイナンシャルプランナー。現在は、ライフデザイン教室も主宰、投資リテラシーの啓蒙に努める。近著に『お金と生き方の学校』『気づきの投資術』（ともにサンガ刊）

失敗の蓄積こそ
何よりの
学びです**アルファブロガーかつ書評家****小銅 弾**さん

ディーエイエス代表取締役。日本のオープンソース開発者、元ライブドア取締役。書評などを主な題材とするブログで有名。ブログ：404 Blog Not Found <http://blog.livedoor.jp/dankogai/>

投資はマジメに
「勉強」する
もんじゃない株の達人が教えます/
本当に力がつく！**投資本の
読み方**

世の中に金融本・投資本はあふれているが、やみくもにそれらを読んだからといって、投資力アップにはつながらない。投資本をどう選び、どう読んでいくべきか。投資の達人たちがアドバイスする。

本誌／坂崎絢子 撮影／大槻純一、尹総吉 撮影協力／紀伊國屋書店 新宿店

Investing
Books

達人に学べ！

step 1

新田ヒカル×小銅 弾×小幡 績 辛口座談会

「投資本にだまされるな！」

まずは「投資本」とつきあうときの心得を達人から学ぼう。カリスマ投資家としてファンも多い新田ヒカルさん、書評を中心としたブログが人気の小銅弾さん、そして行動経済学者の小幡績さんを招いた。敏腕投資家としての実績を持ち、かつかなりの読書家でもある3人が「投資本」について辛口トークを繰り広げる。

**知っておきたい
「投資本の落とし穴」**

編集部 投資力を上げるために、「投資本」とどうつきあえばいいのか。これが今日のテーマです。
新田ヒカル（以下、新田） そもそも「投資本」と呼ばれる本って、はつきりいつて役に立たないことが多いですけどね。

編集部（笑）。一応、テーマが「投資本」なので、あまりにバツサリやられちゃうと……。

小銅弾（以下、小銅） 投資本は書く側が「読者にもうけてもらおう」なんて思ってくれていることはまれで、「少しは小遣いが稼げるかな」っていうのがほとんどです。期待しちゃうダメなんです。
小幡績（以下、小幡） 「私はこれで〇億円にした」とかね。自分の場合だけの成功例を語る本などは、

読者に期待だけ抱かせて有害でしょう。

小銅 本屋に並んでいるのはそういう本だらけ。「投資本にだまされるな！」ってことですよ。全部ダメな本だと思ってかかるくらいがちょうどいいんじゃないの。

編集部 あの、冒頭から「投資本ダメ談義」で勢いがついてしまっているようなのですが……。中にはいい投資本もあるんじゃないでしょうか？

新田 あります。ありますけど、初心者が最初から、いい本とダメな本を見分けるのは、まず無理。私は初心者には「とりあえず投資本10冊買ってくる」のをオススメしています。これで投資用語くらいは何となく分かるようになるでしょうから。

ですが、本当にいい本に出合うには、実は運や直感が必要だったりします。さらに、いい本に出合ってから自分の投資に役立てられるかなとなると、それは遠い道のりです。
小銅 「いい投資本」って、すごく難しいよね。ある人にとっては役立つ投資本だったとしても、ある人には有害だったりする。最近では「分散投資、分散投資」って叫ばれてますよね。でも、あれは基本的に資産の多い人が資産を

